

こちら特報部

説明しきとしない政府の姿勢は今年一月、定年となる六十二歳の誕生日直前だった当時の関川弘務東京高検検事長の定年を、法改正せずに閣議決定で半年間延長した問題でも現れた。官邸に近いとされた関川氏を檢察トップの検事総長に据えるためと指摘され、政府は定年延長を盛り込んだ検察庁法改正案を後付けで提出。三月の衆院法務委員会で、野党が法務省有内での検討過程を質問すると、当時の森田法相は「率直な意見の交換や意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れがあるため、詳細なお答えは差し控えておきたい」と繰り返された。

政府が回答を避ける学術会議と定年延長の二つの問題を、明治大の西川伸一教授（政治学）は「本当のことを言えない点で共通している。隠し通して、国民が忘れるのを待っている」と見る。

西川氏は、政府が学術会議の会員候補六人の任命を拒否したことを「方針に反対する学者を排除したい思いがあった」とも、首相がその答えは思想信条の自由の侵害になり、内閣が吹っ飛ぶ恐れがある」と分析。「無理に正当化しようとするから、合理的な説明ができていない」

高検検事長定年延長 学術会議任命拒否 本当のことが言えない点で共通



●参院予算委員会で答弁する菅義偉首相＝5日、国会で ●記者会見する関西電力の岩根茂樹社長と八木誠会長ら＝2019年10月、大阪市で



トップのはぐらかし 信頼失う

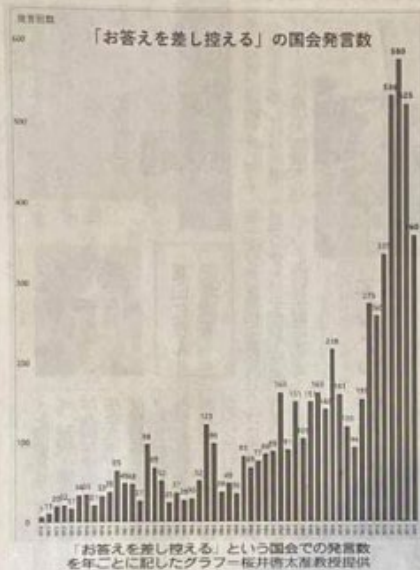
政治の世界だけではなく、質問した人の意向を無視している、言えないことがある。隠し事があるという疑念を抱かせるに十分な「フリーズだ」と、人材組織開発会社「モチベーションファクター」の山口博社長が指摘する。「企業のリーダーが使えない信頼を失い、イメージが悪くなる。組織もまとまらなくなり、リーダーの役割を果たさないと同じ。社会的な言動とは異なる、かねて怒りを感じている」と批判した。

「回答を控える」として押された「隠す」といふ場合が想定されるのだろうか。企業や自治体の広報活動を支援しているNPO法人「広報駆け込み寺」の三隅説夫代表は「状況により本当に言えないことがある。企業で考えると、警察の捜査や裁判が関係している部分は詳細をつまみほかにできない。また、新商品の開発など経営上の秘密についても言えない」といふ。

しかし、広報の基本は「言える」とは言う、「言えない」とは言えない」として、その理由を明らかにする」と三隅氏は、売り上げや株価を下げる恐れがある

隠し通し 国民の忘却待つか？

第2次安倍政権以降に急増 説明せぬ発言



件、九二年の東京川急便事件など政治と力士の問題が起きた年に目立った。第二次安倍政権以降に最も多相の百六十件、三十一日ケ問題や桜を見る会など次々次々と疑惑が出たに伴った。あいつを維持してきたので、味をしめたのではと桜井氏。閣内でも多用し、検察官の定年案の問題で森田法相（当時）が九十四件、自衛隊日報編集問題で福田防衛相（同）は八十七件あった。議員問題も研究「アイ」にしていく桜井氏は、「自立支援」という言葉が社会福祉政策の中に広がった経緯をたどる過程で今回同様、国会の会議録を調べた。「言葉には、発言者本人が自覚していない部分もにじむ」「差控える」といふのは、他者の問い掛けに誠実に応じる気がない意識の表れだ」。

菅政権として初めて臨んでる今国会でも、「控え

「お答えは差し控える」。第二次安倍政権以降、国会や閣僚の記者会見で多く使われるようになり、今国会でも菅義偉首相がこのフレーズを連発している。個人のプライベートに関わる問題など言えないこととはあるとはいえ、それで許されるわけではない。説明責任を放棄したかのような政府の姿勢を憂えるにはどうすればいいだろうか。（中沢佳子、大野孝志）

「お答えを差し控える」という国会での発言数を年ごとに記したグラフ＝桜井博太郎教授提供

「国会審議 野党は徹底抗戦を」

言論の府である国会で、答弁の機会を与えられているのに自ら口を閉ざしてしまふ。全部が全部言えるわけではないことは理解しているつもりだが、最近の状況はひどすぎる。「発言禁止法」を出し、審議するのはどうか。その時も首相や閣僚は発言を控える？（千原しのぶ）

今はインターネット社会だから、内部から情報が出て隠しきれない」とも述べた。

外部に対して不誠実な発言をすれば、企業なら業績悪化につながる。国会でも、野党内閣の支持率は下がっていない。今月十四、十五日に共同通信が実施した世論調査では、前月の60.5%から63.0%に上がっている。姿勢を改めさせる方法はありますか。

政治評論家の森田氏は「「差し控える」と聞くと「丁寧に思えるが、あなたの質問には答えたい」と言っている。首相や指導者として一番理しい対応と切り捨て、こう述べる。「答弁を拒否しているのだから、野党は審議をストップさせるべきだ。野党が徹底的に戦えば、与党内にびびりが入り、次の選挙の結果に結び付くだろう」

こちら特

首相ら連発「お答えは差し控える」

「お答えは差し控える」。第二次安倍政権以降、国会や閣僚の記者会見で多く使われるようになり、今国会でも菅義偉首相がこのフレーズを連発している。個人のプライベートに関わる問題など言えないこととはあるとはいえ、それで許されるわけではない。説明責任を放棄したかのような政府の姿勢を憂えるにはどうすればいいだろうか。（中沢佳子、大野孝志）

「お答えを差し控える」といふ言葉が、第二次安倍政権以降に急増している。菅政権では、閣内でも多用し、検察官の定年案の問題で森田法相（当時）が九十四件、自衛隊日報編集問題で福田防衛相（同）は八十七件あった。議員問題も研究「アイ」にしていく桜井氏は、「自立支援」という言葉が社会福祉政策の中に広がった経緯をたどる過程で今回同様、国会の会議録を調べた。「言葉には、発言者本人が自覚していない部分もにじむ」「差控える」といふのは、他者の問い掛けに誠実に応じる気がない意識の表れだ」。

菅政権として初めて臨んでる今国会でも、「控え

「議論拒む答弁、民主主義揺るがす」

「発言は自立」。十月二十九日の参院本会議で学術会議の問題をかかれた菅氏は「人事に関することであり、人事に関する」とこたへた。

衆議院議員杉本功也（自由民主党）は「杉本議員の発言に、閣内でも多用し、検察官の定年案の問題で森田法相（当時）が九十四件、自衛隊日報編集問題で福田防衛相（同）は八十七件あった。議員問題も研究「アイ」にしていく桜井氏は、「自立支援」という言葉が社会福祉政策の中に広がった経緯をたどる過程で今回同様、国会の会議録を調べた。「言葉には、発言者本人が自覚していない部分もにじむ」「差控える」といふのは、他者の問い掛けに誠実に応じる気がない意識の表れだ」。

菅政権として初めて臨んでる今国会でも、「控え